

# 一橋戦 部便り

## 目次

1. 一橋戦 講評
  - 1.1 監督より
  - 1.2 主将・女子主将より
2. 一橋戦 試合経過
3. 選手の言葉
4. 試合結果
5. 自己記録更新者一覧
6. 2018年度部内五傑
7. 2018年度東大記録更新者一覧
8. 主務より

## 1. 一橋戦 講評

### 1.1 監督より

#### 監督・藤田靖浩

今年度の一橋戦は改修前の駒場グラウンドで行う最後の対校戦となりました。男子は無事に総合優勝、女子は津田塾大学に及ばず2位でした。

突出した記録こそでませんでしたが、投擲や跳躍中心に自己ベストを更新した選手もおり、2番手、3番手の底上げもされてきました。

これから1ヶ月、京大戦に向けて引き続き練習に励み、来シーズンに向けて良い流れを作っていきたいと思いません。

### 1.2 主将・女子主将より

#### 次期主将・三宅功朔

OB・OGの皆さま、先日は猛暑の中駒場グラウンドまで足を運んでくださり誠にありがとうございました。

今年度より代替わりが京大戦後になりましたが、7大戦後に院試勉強で練習に参加できない4年生が多数いたため一橋戦は3年生が主導で戦いました。若干名の例外は除いてベストメンバーで臨みましたが、一橋大学が最近10年で最も強いと言われており苦戦が予想されました。結果は総合62点、12点差で優勝でした。最終的には小さくない点差がつきましたが、昼頃には負け越す場面も見られ少しひやりとする試合でした。夕方の種目、5000mで阿部、栗山、遠藤が1,2,3位をとり流れを東大に引き戻し、走幅跳で1,3,4位、マイルリレーで1位を取って勝ちを決めた時は非常に良い雰囲気でした。課題もあり、取るべき順位を取れない選手が見受けられました。今回は現実的な目標順位を設定させて記録の下振れを防ごうとしましたが、中距離種目でうまく機能しなかったようです。全体として対校選手が勝負弱い傾向があり、改善の方法を模索していきたいと考えています。

次はいよいよ京大戦です。昨年の雪辱が果たせるよう懸命に頑張ってください。変わらぬご声援をお願い致します。

## 次期女子主将・内山咲良

OB・OGの皆様には日頃から多大なるご声援をいただき大変感謝しております。

女子パートとしては、三大戦は京大戦につながる大会と捉えており、勝つことを狙って臨みました。今年は三校の協議のもと四点制となりましたが、津田塾大学が年々強くなっており、得点予想の段階から、取るべき順位を死守した上でリレーで勝ち、同点に追いつければ一位の種目数で勝てるだろうという厳しい試合でした。当日はある程度順位の変動はあったものの、谷口(1)の活躍もあり、予想通りの得点でリレーを迎えました。しかしリレーで津田塾大に勝てず、全体としては四点差で負けるという結果となりました。東大のリレーのタイムは七大戦よりやや上がっておりましてので、女子パート全体としての力が、一步、津田塾大に及ばなかったと言わざるを得ません。この悔しさを忘れず、去年は負けてしまった京大に今年は勝てるよう、女子パート全体で精進して参ります。引き続きよろしく願いいたします。

## 2. 一橋戦 試合経過

◎トラック種目

### 11:05 男子 100m 決勝

対校男子 100m には、5レーンに井上(2年)と7レーンに村井(3年)が出場した。本来は3年の阿久津も出場する予定であったが、怪我により欠場した。一橋大からは3人が出場するのに対し、東大からは2人と人数の点で不利な状況にあった。本種目での獲得点数で一橋大に勝ち越すためには、2人の対校選手のどちらかが1位を得ることは必須となっていた。また、当日は機器の不具合でタイムは手動での測定となっていた。

レースは1回でスタートした。井上、村井共にスタートでもたつくようなことはなくスムーズに出た。30メートルを過ぎたところで、6レーンの一橋大の選手が抜け出た。2人はそれを必死に追うも追いつくことはできず、残りの一橋大の選手と並ぶ形でフィニッシュラインへと到達。最終的な結果は、村井が10"9で2位、井上が11"0で5位であった。なお、このときの風は向かい風 1.5mであった。

今回の一橋戦の得点は4点制となっているため、東大は村井の2位による3点を獲得。一橋大は1,3,4位を確

保したことで計7点を獲得し、東大は4点負け越す結果となった。このような結果の要因の一つは、今シーズン国公立戦、四大戦、七大戦といずれも好調であった井上の不調であろう。常に好調だという選手など存在し得ない以上、状態が芳しくないまま出場したということに関してはやむを得ないことである。今回の反省を活かして次の京大戦へと挑んでもらいたい。

### 11:20 女子 100m 決勝

2レーンに谷口(1年)、5レーンに内山(3年)の出場。一橋大の選手が欠場したため、東大2人と津田塾大2人の対決となった。気温は35度を超えていた。資格記録は東大に分があるように思われたが、シーズンベストを見るとひっくり返されてもおかしくないといった状況だった。

スタートから内山と4レーンの津田塾大の選手が先行する形になった。内山はぐんぐん加速していったが、なかなか突き放せない。しかし、そのままなんとか逃げ切り12"73の1位でゴール。谷口はスタートから津田塾大の2番手の選手と競る展開になった。接戦になるかと思われたが、後半はスピードに乗り、ある程度の差をつけて13"33の3位でゴール。内山が4点、谷口が2点で合計6点を獲得した。この時向かい風 1.2mであった。向かい風ながら谷口はシーズンベストを更新し、内山もまずまずのタイムということで京大戦でのさらなる活躍を期待したい。

### 11:40 男子 1500m 決勝

古賀(3年)、柘村(2年)、道岡(1年)の出場。競技進行の遅れなどもあり、競技開始は12時ごろに。気温、湿度ともに高く、いいコンディションとは言えない中でのレースとなった。SBランキングでは両大学は拮抗しており、結果はレース展開次第という展望。

スタート後100mで古賀が先頭に立つ。道岡は2番手、柘村は6番手につく。ラスト400mまで大きな変化はなく、400mごとのラップも69秒、67秒、68秒とほぼイーブンペースで進んでいく。1200m地点で大倉(一橋)が先頭に立ち、ついていけるのは一橋の2選手と道岡。古賀と柘村はペースアップについていくことができず、上位争いはこの4選手に絞られる。道岡はラスト100m地

点で一度3位に浮上したものの、一橋の選手の追い上げに勝てず4位でフィニッシュ。記録は4'09"79。柗村は5位で4'18"62、古賀は6位で4'21"75。

結果、一橋に大きく水をあけられることとなった。道岡を含め上位4選手がSB並みの記録を出した一方で、柗村・古賀は自己記録からは程遠い記録となってしまった。レース展開的には、最終ラップまで古賀について体力を温存し、ラストスパートをかけた一橋の方が一枚上手だったと言える。中・長距離を通して頭一つ抜けた記録を持つ選手がいないため、これからもレース展開が対校得点の重要な鍵となってくる。4年が抜け、根本的な走力強化など多くの課題が露呈した結果となった。

### **11:50 女子 1500m 決勝**

高石(4年)と荒木(4年)の出場。荒木は足に不安のある藤原(4年)と正補交代をした。高石は昨年自身が作った4'43"83という大会記録の更新が期待されていた。次いで津田塾の2名が先行すると見られており、荒木は一橋の1年生に勝ち切り4位で得点を得られるかが焦点となっていた。

スタート後から終始、高石、津田塾の2名、荒木、一橋の1名の順番で、下馬評通りにレースが進んでいった。一周毎の通過タイムは高石が72,76,76,56、荒木が78,87,88,68と、全体として最初の1周が少しオーバーペースであったことは記しておくべきであろう。結果は高石が4'40"9(手動)の1位、荒木が5'20"96の4位と、合計5点獲得で津田塾と得点を分け合う形となり、対校総合得点で差をつけることは叶わなかった。ただ、暑い正午のコンディションの中で、高石は終始先頭を単独で走りながら大会記録を更新し、荒木も現時点での実力をしっかりと出すことができたという事実は前向きに受け止めるべきであろう。実力を伴った4年生の引退を間近に控えた今、これからは1年生の成長にも期待したい。

### **12:20 男子 110mH 決勝**

3レーンに本田(2年)、5レーンに馬上(1年)、7レーンに松田(3年)の出場。SBは一橋の選手1人が飛び抜けているが、それ以外はあまり差がなく、混戦が予想された。注目は14"50という圧倒的な資格記録を持つ馬上。大学初戦であった七大戦は苦手な向かい風を前に厳しい戦い

を強いられたが、「一橋戦は風が追えば無双できる」と試合前に豪語しており、好走が期待された。

レースはSB1番の一橋の選手が飛び出してスタート。それを本田が追っていく展開に。馬上は前半やや遅れるも、堅実なハードリングで後半勢いに乗る。そのまま本田は2位でゴールし、タイムは15"67。馬上は3位でゴールし、タイムは16"06。松田は一橋の2番手と一騎打ちする形となり、10台目やや遅れた状態から気合の走りを見せ同タイムでフィニッシュ。しかし着差有りで一橋の2番手には敗れ、16"20の5位という結果になった。なお風は±0であった。

今回はこの種目で本田が3点、馬上が2点の合計5点を獲得した。京大戦ではかなり厳しい戦いが予想されるが、「京大戦こそ風が追えば無双」と意気込む馬上を中心に善戦してくれることを期待しよう。

### **12:50 男子 400m 決勝**

2レーンに伊藤(3年)、6レーンに岩崎(2年)の出場。4レーンに出場予定であった小嶋(4年)は当日突然の体調不良で棄権を余儀なくされた。対校男子100mで負け越してしまった為400mで取り返す必要があるが、資格記録トップの小嶋の離脱で状況は厳しくなった。レースが始まると、前半は1レーンの一橋の選手がやや先行する程度で特定の選手が大きく抜け出すことはなく後半勝負となる。伊藤が仕掛け、1レーンの選手より前に出るも最後に抜かれて50"81の2位でゴール。岩崎はホームストレートでの3レーンの選手との3位争いを制し、51"12の3位でゴール。合わせて5点獲得し、この種目ではタイとなった。1人減った中できちんと得点できたものの2人の記録はそれぞれの自己ベストに及ばず、棄権した小嶋も含め全員が納得のいかない結果となってしまった。

一ヶ月後の京大戦ではコンディションを調整し、自己ベストを更新して活躍することを期待したい。

### **13:05 女子 400m 決勝**

3レーンに高石(4年)、6レーンに谷口(1年)の出場。昼過ぎの炎天下でのレースとなった。

号砲とともに高石は落ち着いたスタートを切り、谷口は勢いよく飛び出した。バックストレートに入ると両選

手ともスピードに乗り始めるが、徐々に2レーンから津田塾の選手が迫ってくる。200mを通過したあたりから、谷口はやや苦しい走りとなってきた。一方の高石は、津田塾の選手とほぼ並んだ形で最後のコーナーを通過し、ホームストレートでの勝負となる。高石は懸命の走りを見せるものの、津田塾の選手に離されてしまい、1'00"8(手動)の2着でゴールした。谷口も最後は粘りの走りを見せ、1'04"4(手動)の3着でゴールした。この結果、東大はこの種目で5点を獲得した。

津田塾の選手が予想以上の走りを見せ1位を取られはしたが、高石、谷口の両選手はそれぞれの役割を果たしたように思われる。両選手とも炎天下での複数種目出場ということもあり、疲労が溜まった中でのレースであったと思われるが、京大戦でも同様のことは十分に考えられるため、さらなるレベルアップが期待される。

### **13:55 男子4×100mR 決勝**

3レーンに一橋大、4レーンに東大の出場。東大の走順は木崎(2年)-岸田(2年)-井上(2年)-近藤(2年)。怪我や体調不良で出場できない選手がいる中でのレースとなった。

号砲とともに1走の木崎が素晴らしいスタートを切る。2走の岸田へのバトンパスはバトンゾーンぎりぎりとなったがスピードを緩めなんとかバトンを繋いだ。少しづつ一橋大との差を詰め3走の井上へほぼ同時にバトンパス。井上は粘りの走りを見せ4走の近藤へとバトンが渡った。近藤は一橋大を懸命に追うも追いつけず、42"7(手動)の2位でゴール。2点獲得となった。

今回のレースでは出場できない正選手が複数いた。出場できなかった選手も含め、京大戦でベストパフォーマンスができるようしっかりと合わせていきたい。

### **14:55 男子5000m 決勝**

阿部(3年)、遠藤(3年)、栗山(3年)の3人の出場。日差しが強く気温も高い、選手たちにとっては厳しい条件下でのレースとなったが、持ち記録トップの阿部を中心に大量得点の獲得が期待された。

レースは序盤からスローペースで展開し、栗山を先頭に3人とも1000mを3'17、2000mを6'35で通過。2400m

付近で栗山が一人少し出る形になり、阿部が2位集団の先頭に位置取る。2800m付近で阿部がギアをあげ集団から抜け出し栗山に追いつく一方、遠藤は3位集団から離れず順位を維持。3000mの通過は栗山が9'49、阿部が9'50、遠藤が9'58。3700m付近で阿部がペースを上げ栗山を引き離し単独で先頭に、また、3位集団では遠藤が先頭に出て引っ張る形に。4000mの通過は阿部が13'01、栗山が13'03、遠藤が13'23。阿部がさらに栗山を引き離し、先頭のまま16'05"02の1位でゴールし4点獲得。栗山も2位のまま、16'13"27でゴール、3点獲得。遠藤は終盤一時後れをとるが、粘りのラストスパートで集団の二人を振りきり16'30"56の3位でゴール、2点獲得という結果となった。

コンディションがかなりきつくタイムは伸びなかったが、スコルク勝ちという最高の形で得点をしっかりと獲得するという目標が達成できたのは大きな収穫であったし夏合宿でもチームを引っ張っていた3人の堂々とした走りはチームを盛り立てるものであった。

### **15:20 女子4×100mR 決勝**

荒木(4年)-谷口(1年)-内山(3年)-高石(4年)の走順で5レーンに出場。七大戦と同じ走順で臨む。一橋大学はエントリーしておらず、津田塾大学との一騎打ちとなる。シーズンベストは、僅かではあるものの津田塾よりも良いので、ここでしっかりと勝ちたいところ。

1走の荒木は中距離ながらもまずまずのスタートを見せたが、スピードの差は大きく、50m付近で津田塾に抜かされてしまう。2走の谷口が津田塾の後を追いかけ食らい付いていくも、なかなか差は埋まらず、3走の内山へ。ここで、内山が堂々とした走りで徐々に差を縮めていく。10mほど差を縮めたか。しかし、4走の高石にバトンが渡った時、まだ10mほどの差があった。高石は専門外ではあるが、安定した走りを見せるものの、差を埋めることはできず、52"04の2位でフィニッシュ。

専門種目外にまたがる選手たちの活躍で、今回この種目で2点を獲得した。七大戦の時よりも僅かながら記録を上げた。京大戦では白熱したレースが期待され、今後の記録の向上に期待したい。

### **15:30 男子4×400mR 決勝**

東大は3レーンに伊藤(3年)・岩崎(2年)・近藤哲(2年)・井上(2年)の出場。一橋大は1つ外の4レーン。風はホームストレートで弱い向かい風か。この日の最高気温は35度を超え、すでに伊藤は400mに、井上と近藤は4継、井上はさらに100mにも出場しており、疲労が気になるところ。だが、SBは東大が上回っているので負けたくはない。

最終種目とあって、この日最大であろう観衆が見守る中、1走の伊藤が走り出す。最序盤は少し抑えた走りに見えたが、安定したペースで一橋大の選手との差を徐々に縮め、ホームストレートに入る頃には3~4m先行し、そのまま2走の岩崎にバトンを渡す。バトンを受け取った岩崎は勢いよく飛び出し伊藤のつくった差をより大きなものにする。200m通過したあたりから少し疲れがみえたか、一橋大の選手が追いついてくるが、とらえられることはなく走りきり、バトンは3走、近藤へ。近藤は速いピッチで飛ばし、相手選手との距離を広げる。200m地点で近藤もまた疲れからかペースが落ちるが、気合の走りで差を守りバトンはアンカーの井上へ。井上もテンポよくレースを進め、最後まで相手に距離を縮めることを許さず1位でフィニッシュ。タイムは3'22"61で4点獲得した。

今大会で東大は常に先行した状態で勝つことができた。ただ、SBは3'17"45であり、改善の余地はありそうだ。1ヶ月後の京大戦に向けて万全の準備が必要だ。

#### ◎フィールド種目

#### 10:30 男子円盤投 決勝

男子円盤投には佐竹(4年)、田口(4年)、八木澤(4年)の出場。top3を東大勢で占めたいところ。最近佐竹は練習投擲で35m程度を投げるが、この日も力むと右側に投げてしまう悪い流れに苦しみ、三投目までで2投目の29m85しか記録を残せない。一方田口は安定したターンを見せ、3投目まで33m69と一歩リードする。八木澤は調子が悪いのか円盤に力が全然伝わっておらず、27m47で折り返す。後半も八木澤は気持ち良く投げることが出来ず立ち投げすらファールしていまい、記録を伸ばせなかった。また、自己記録まであと少しの田口も力んでしまい記録を伸ばせない。同じく佐竹は4、5投目もファールしてこのまま田口が優勝するかと思われたが、6投

目なんとか内側に収めて34m17で逆転した。結果、佐竹が34m17で1位、田口が33m69で2位、八木澤が27m47で4位となった。佐竹と八木澤は4回もファールしているので京大戦に向けて安定感を高めてもらいたい。

#### 12:00 男子走高跳 決勝

昼の12時から始まる男子対校走高跳、東大からは木下(4年)、赤塚(3年)と永本(1年)が出場する。優勝争いは赤塚と木下の対決になりそう。天気は良く気温が非常に高い中で競技は進行する。

永本の170cmの試技からはじまり、1本目は体があまり浮かずに失敗。2本目には余裕のある跳躍を見せ、続く175cmでもクリア。180cmからは永本と木下が挑戦し、木下のみ成功する。木下は次の185cmではバーに触れるも、高さには余裕のある跳躍でクリア。190cmで赤塚も跳び始める。この高さを2人とも難なくクリアする。この時点で残る選手は赤塚と木下のみになる。195cmでは赤塚と木下はともに2回失敗し、3回目の跳躍を迎え、赤塚のみが成功し優勝を決める。続く200cmは赤塚にとって自己ベストとなる。1本目に慎重な助走からの跳躍で失敗し、続く2本目も失敗する。3本目は滑らかな助走から大きく跳ぶも惜しくも失敗となった。

赤塚が1位で4点、木下が2位で3点を獲得した。3人とも自己ベストとはならなかったが、京大戦に向けて課題も見つかっただろう。更なる活躍が期待される。

#### 12:50 男子砲丸投 決勝

東大からは八木澤(4年)、佐竹(4年)、中村(2年)が出場した。八木澤は11m61の自己ベストを持っているが、1投目ファール、2投目11m10、3投目11m09、4投目ファール、5投目10m98、6投目11m09と振るわなかった。ただ、安定して11m台を投げられていることは評価できる。佐竹は11m24の自己ベストを持っているが、1投目9m61、2投目10m10、3投目ファール、4投目10m40、5投目10m50、6投目ファールと、思うような投擲ができなかった。前半、砲丸が手にうまくはまらず、全体を通して体のキレが良くなかった。中村は1投目10m25、2投目10m23、3投目10m31、4投目10m65、5投目

10m20、6投目10m23と、自己ベストの10m25を大きく更新した。ただ、アベレージが低いので、高いところで安定させられるかどうか課題となる。結果、八木澤が1位、中村が2位、佐竹が3位となった。この調子で京大戦も上位を独占してもらいたい。

### 12:50 女子砲丸投 決勝

東大からは内山(3年)が出場した。1投目7m53、2投目7m96、3投目7m50、4投目7m19、5投目7m31、6投目8m07と、自己ベストの7m台を大きく更新して2位であった。4、5投目以外は立ち投げであり、グライドやステップ投法を練習すればさらなる飛躍が期待できるであろう。

### 14:10 男子走幅跳 決勝

木下(4年)、村井(3年)、平井(3年)の出場。38℃を超える猛暑の中、14時過ぎに競技が開始された。チーム全体を考えると、走幅跳で差をつけたいところであった。1回目の跳躍では村井が6m55、平井が6m27、木下が6m78と低調な滑り出しとなり、先行きが危ぶまれた。また、一橋勢は全員ファールとなり、展開が非常に読みづらくなった。2回目の跳躍では村井が6m82とSBにならび、暫定首位に立つ。続く平井は踏み切れずに駆け抜け、木下も跳躍を完成させられず記録を伸ばせない。3回目には木下は7m02を跳ぶも、平井は着地で足が残ってしまい、大幅に損をしてしまう。木下が1位、村井が3位、平井が5位で4回目以降の試技に進む。4、5回目と平井はシザースの歩数を減らし、着地の大幅なロスを減らそうとするもファールしてしまう。5回目には村井が良い流れの助走から持ち味の踏切を活かした跳躍を見せ、6m84を跳ぶ。これに触発されたのか木下も力強い跳躍を見せ7m15と後続を突き放した。そして迎えた最終跳躍。村井は5回目に迫るような跳躍を見せるも6m71。続く平井はようやく跳躍をまとめて6m64を跳び4位に浮上する。既に優勝を決めた木下は、駒場での最後の対校戦の跳躍であったが惜しくもファール。木下が7m15(+1.1)の1位、村井が6m84(-0.7)の3位、平井が6m64(+1.7)の4位、計7点獲得で競技を終了した。次の京大戦では、跳躍全体で見るとかなり接戦となることが予想されるので、あと1ヶ月さらに練習を積んで臨みた

い。

### 14:10 女子走幅跳 決勝

内山(3年)はこの日三種目目となる走幅跳に出場した。津田塾との点差を考えるとここでしっかり一位をとっておきたいところである。

一跳目で津田塾の一番手のPB以上の記録である5m38を出し、二跳目でさらに記録を伸ばして5m42とする。しかし、その後記録は伸びず、走幅跳に出場する選手が全員リレーにも出ることから六跳目をパスしてリレーに移動した。

結果内山は優勝し、この種目4点を獲得した。合宿後、かつこの日三種目目であったことからPBを出すのは厳しかったとはいえ、どんなコンディションでも5m50は跳べるようにしたいところである。今後技術面での改善が望まれる。

### 14:30 男子やり投 決勝

三浦(1年)と石田(2年)の出場。14時30分からの競技開始ということもあり、35度を超える猛烈な暑さの中、競技が行われた。

三浦の1投目は、やりに力が伝わらず、やりがぶれてしまい40m74であった。一投目から自己ベストに近い記録が出たため自己ベスト更新の期待がかかる。石田の1投目は、やりに速度が出たものの投射角が高く、やりが浮き上がってしまい失速し、40m付近に着地した。三浦の2投目はやりに力がうまく伝わり、45m付近にやりが着地したが、惜しくもラインから一足分ほど足が出てしまいファールであった。石田の2投目は1投目よりも若干投射角が低く抑えられ、やりが失速することなく飛び、記録は自己ベストの47m60であった。三浦は3投目以降、2投目のファールを意識していたためか助走からスピードが出ず、上半身の力に頼った投げとなってしまう、やりの初速が遅く、全て1投目の記録を越すことが出来なかった。石田は3投目以降、全て1投目のように投射角が高く、やりが浮き上がって失速してしまう形の投げとなってしまう2投目の記録を越せなかった。結果としては、三浦、石田は全体5人中それぞれ5位、3位であり、石田は下馬評から一つ順位をあげることが出来た。一橋が8点、東大が2点で男子やり投げとしては

6点負け越す形となってしまった。三浦はまずは45mを、石田はこの調子で50mを、それぞれ京大戦で出せるよう残り1か月間練習を頑張ってもらいたい。

### 3. 選手の言葉

#### 短距離3年 伊藤康裕 (400m,4×400mR)

七大戦が終わってから脚の痛みがあったためその後の2週間は完全な休養期間にしていました。その後の合宿でもあまり走り込むメニューをしていなかったため、400を走るには特に体力面で不安がありました。ただ合宿期間中はフォームの改善に取り組んでいたためその技術向上で体力面の不安を相殺もしくは上回ることができるのではという期待もありました。

対校400mのレースはとにかく力まないよう自分としては遅めのペースで入りました。前との差が広がっていきましたがあまり焦らないようにしてペースを維持しました。第三コーナーに入り少しペースを上げ前を追っていき、コーナーを抜けたあたりではトップに立ちました。しかしホームストレートの最後で時自分と同じように後半に体力を残していた一橋の選手に追い抜かれてしまい2位となってしまいました。

その後の4×400mRでは一走を務めました。相手の一走は先ほどの400mで負けた選手で自分としてはリベンジする気持ちでした。対校400mの序盤の入りが遅すぎだったというアドバイスを受け入りの100mでは外側のレーンを走る向こうの選手との距離を少し詰めるぐらいで走りました。その後は対校400mと同じようなレース展開をして第四コーナーを抜けるあたりで追いつき、最後のストレートは腕をがむしゃらに振って走っていくと相手を突き放すことができ、かなりリードしてバトンを渡すことができました。マイルで勝つことができ個人的なりベンジも果たせたので良かったです。記録はいずれもPBと同等の記録で、フォーム改善によって走りの効率が多少上がったのかなと思っています。一ヶ月後の京大戦の相手は正直49秒台では太刀打ちできませんが、膝で蹴らないフォームを確立してまずは49秒台を達成し来年への弾みにしたいです。

#### 長距離3年 遠藤正陽 (5000m)

今回の一橋戦は、正補交代での出場となりました。シーズン前半から北海道清里町での長距離合宿まで怪我や不調なく着実に練習が積み上げてきていましたが、試合2週間前に対校での出場が決まった途端、呪いにかかったように右膝が痛くなりました。思うように仕上げの調整ができない中でも、温泉療養や跳躍部員による指導のおかげで幾分快方したうえで本番に臨むことができました。このような状況での出場であり、また当日の酷暑も相まってタイムは悪かったです。力が拮抗していた一橋の3人に根負けせず、3着に滑り込んだ点は満足しています。

体に負担を強いて走らなければならなくなったことが今回1番の反省点です。ベストのパフォーマンスは発揮できませんでした。今後、秋シーズンは調子がどんどん上がっていく長距離にとって重要な時期になります。まず落ち着いて膝を治してからそこに突入していきたいと思います。

#### 跳躍1年 谷口智海 (100m,400m,4×100mR)

入部して1ヶ月半で臨んだ7月末の七大戦は悔いが残ったため、今回の一橋戦は悔いの残らない走りをしたという気持ちで臨みました。今回は100mと4×100mR加え、約2年ぶりとなる400mに出場させていただきました。試合までは400mを意識した練習を多めに取り入れていましたが、本番の400mのレースではペースをしっかりコントロールできず、不本意な結果に終わりました。一方、100mでは調子はベストというわけではなかったものの、シーズンベストで下馬評をひっくり返し、3位に入ることができたことは良い経験になったと思います。

今後、跳躍種目に関しては未定ですが、対校戦では短距離種目が中心になると思うので、ベスト更新を目標に、特に100mは12秒台を確実に出せるような実力をつけるべく練習に取り組み、山積みの課題を一つずつ改善していきたいです。

## 跳躍2年 平井智史 (走幅跳)

対校男子走幅跳に出場させていただきました跳躍3年の平井です。2年栗原の代役としての出場でした。合宿前くらいから左脛に鈍痛があり、万全のコンディションではありませんでしたが、6本目で僅かながらPBを記録し一橋の選手を抜けたことは非常に嬉しく思います。記録だ順位だということよりも、自分の最低限するべき動きを確実にすることだけに集中できたからだと思います。一方で6m64という記録は高校時代と10cmほどしか差がなく、関東インカレ参加B標準の7mにも遠く及ばない記録です。今シーズン残す対校戦は京大戦のみとなりましたが、1本1本の跳躍で少しずつでも成長し、7mを跳べるように今後も練習に励みたいと思います。

## 投擲2年 石田駿平 (やり投)

試合前の分析では、一橋の3番手が46m後半(自分より2mほど上)のSBを持っており、東大は八木澤さんが欠場するため、厳しい戦いが予想されました。七大戦以降、助走のクロスを一つ増やし、リズム重視の助走を加速重視の助走変えようと取り組んできましたが、京大戦に焦点を合わせて練習していたため、まだ安定したものにはなっていませんでした。しかし、スコルク予定だった円盤投でスコルクできず、投擲としてもあまりいい流れではなかったのと、安定をとって45付近を投げたところで順位は覆せないという思いから、攻めた助走を選択しました。

PBとなった2投目は、1投目でスピードに乗り切れなかったのを反省してスピードを意識しました。リリースの感触はあまり良くなかったのですが、タイミングをうまく合わせられたと思います。後半の4~6投目は下半身がついてきてなかったのでスピード重視の助走でもバテないよう練習を積んでいきます。下馬評を覆すことはできましたが、やり投げで大幅に負け越していることには変わりなく、パート全体でもっと強くならなければいけないと強く感じました。京大戦はやり投げでどこまでくらいつけるかが投擲の勝負の分かれ目になると思うの

で、これから一ヶ月間、助走を中心にさらに見直して練習を積みたいと思います。応援ありがとうございました。

## 4. 試合結果

### 第60回一橋大学・東京大学対校陸上競技大会

#### 男子100m決勝(-1.5)

1	浅沼 優斗	一橋大	10"8
2	村井 輝	東大	10"9
3	小口 智毅	一橋大	10"9
4	恒松 玲央	一橋大	10"9
5	井上 昂	東大	11"0
	阿久津 大貴	東大	DNS

#### 男子400m決勝

1	池野 和	一橋大	50"29
2	伊藤 康裕	東大	50"75
3	岩崎 誠倫	東大	51"36
4	斎藤 広武	一橋大	51"53
	小嶋 健太郎	東大	DNS

#### 男子1500m決勝

1	大倉 和樹	一橋大	4'08"31
2	清崎 佑	一橋大	4'08"85
3	福澤 元己	一橋大	4'09"52
4	道岡 聖	東大	4'09"79
5	榊村 浩行	東大	4'18"62
6	古賀 淳平	東大	4'21"75

#### 男子5000m決勝

1	阿部 飛雄馬	東大	16'05"02
2	栗山 一輝	東大	16'13"27
3	遠藤 正陽	東大	16'30"56
4	山口 雄大	一橋大	16'35"75

#### 男子110mH決勝(0.0)

1	佐藤 勇介	一橋大	15"30
2	本田 洋平	東大	15"67
3	馬上 凌	東大	16"06



4 池野 和 一橋大 16"20

5 松田 光陽 東大 16"20

#### 男子 4×100mR 決勝

1 一橋大 朝田—恒松—浅沼—小口 41"7

2 東大 木崎—岸田—井上—近藤 42"7

#### 男子 4×400mR 決勝

1 東大 伊藤—岩崎—近藤—井上 3'22"61

2 一橋大 池野—斎藤—福澤—清崎 3'23"63

#### 男子走幅跳 決勝

1 木下 秀明 東大 7m15(+1.1)

2 阿保 朗楽 一橋大 6m99(+0.6)

3 村井 輝 東大 6m84(-0.2)

4 平井 智史 東大 6m64(+1.7)

#### 男子走高跳 決勝

1 赤塚 智弥 東大 1m95

2 木下 秀明 東大 1m90

3 中山 直史 一橋大 1m85

4 阿保 朗楽 一橋大 1m80

5 永本 裕貴 東大 1m75

#### 男子砲丸投 決勝

1 八木澤 光大 東大 11m10

2 中村 優太 東大 10m65

3 佐竹 俊哉 東大 10m50

4 佐藤 勇介 一橋大 9m80

#### 男子円盤投 決勝

1 佐竹 俊哉 東大 34m17

2 田口 広太郎 東大 33m69

3 佐藤 勇介 一橋大 27m62

4 八木澤 光大 東大 27m47

#### 男子やり投 決勝

1 田中 佑資 一橋大 57m30

2 辻 智史 一橋大 49m78

3 石田 駿平 東大 47m60

4 阿保 朗楽 一橋大 44m23

5 三浦 勁士 東大 40m74

八木澤 光大 東大 DNS

### 第16回東京三大学女子対校陸上競技大会

#### 女子 100m 決勝(-1.2)

1 内山 咲良 東大 12"73

2 尾山 智沙 津田塾 12"78

3 谷口 智海 東大 13"33

4 森畑 愛 津田塾 13"59

#### 女子 400m 決勝

1 尾山 智沙 津田塾 58"8

2 高石 涼香 東大 1'00"8

3 谷口 智海 東大 1'04"4

4 川浪 亜紀 津田塾 1'08"3

#### 女子 1500m 決勝

1 高石 涼香 東大 4'40"9

2 笹木 晴奈 津田塾 4'56"6

3 増渕 朱里 津田塾 5'12"4

4 荒木 玲 東大 5'21"2

#### 女子 4×100mR 決勝

1 津田塾 川浪—尾山—浅井—森畑 51"27

2 東大 荒木—谷口—内山—高石 52"04

#### 女子走幅跳 決勝

1 内山 咲良 東大 5m42(+1.6)

2 森畑 愛 津田塾 5m06(-0.3)

2 尾山 智沙 津田塾 4m78(+0.3)

#### 女子砲丸投 決勝

1 山下 彩花 津田塾 8m28

2 内山 咲良 東大 8m07

3 高橋 碧衣 津田塾 7m55

### 5. 自己記録更新者一覧

8/4,5 第13回 N.S.S.U.オープン競技会

400m 町田黎子(1年) 1'16"26

8/11,12 第61回東日本医科学生総合体育大会

100m 内山咲良(3年) 12"57(+1.0)

110mH 内山咲良(3年) 15"65(+0.8)

8/26 第60回一橋大学・東京大学対校陸上競技大会兼第16回東京三大学女子対校陸上競技大会

1500m 永嶋祐安(2年) 4'15"6

110mH 本田洋平(2年) 15"67(0.0)

三段跳 藤原暉(3年) 13m30(+0.2)

走幅跳 平井智史(3年) 6m63(+1.7)

砲丸投 中村優太(2年) 10m65

砲丸投 内山咲良(3年) 8m07

やり投 石田駿平(2年) 47m60

**6. 2018年度 部内五傑**

(順位 氏名 (学年) タイム 日付)

**男子 100m**

1 井上昂(2年)	10"77(+1.0)	5/6
2 阿久津大貴(3年)	10"90(+0.7)	5/6
3 村井輝(3年)	10"96(-0.7)	5/24
4 岩崎誠倫(2年)	11"26(+1.5)	7/14
5 星野祐輝(1年)	11"27(+0.7)	6/9

**男子 200m**

1 小嶋健太郎(4年)	21"84(+0.7)	6/9
2 井上昂(2年)	21"90(+1.4)	5/6
3 聲高健吾(2年)	22"13(-2.0)	7/29
4 阿久津大貴(3年)	22"54(-3.6)	7/8
5 岩崎誠倫(2年)	22"58(+1.1)	7/15

**男子 400m**

1 小嶋健太郎(4年)	50"20	4/30
2 坂口諒(4年)	50"25	6/9
3 伊藤康裕(3年)	50"64	5/5
4 村井輝(3年)	50"66	5/2

5 岩崎誠倫(2年) 50"83 6/9

**男子 800m**

1 坂口諒(4年)	1'55"12	4/21
2 小野康介(3年)	1'55"60	4/21
3 近藤秀一(4年)	1'56"56	3/17
4 伊藤龍一郎(4年)	1'58"81	3/17
5 八ツ本真司(3年)	2'01"01	5/12

**男子 1500m**

1 近藤秀一(4年)	3'51"51	7/28
2 阿部飛雄馬(3年)	4'05"49	6/23
3 古賀淳平(3年)	4'05"49	6/23
4 油井星羅(4年)	4'07"50	3/18
5 松本郁也(2年)	4'07"57	6/2

**男子 5000m**

1 近藤秀一(4年)	14'12"17	4/7
2 阿部飛雄馬(3年)	15'10"06	7/1
3 栗山一輝(3年)	15'26"75	6/3
4 松本郁也(2年)	15'26"77	3/31
5 岩崎諒介(4年)	15'36"49	6/3

**男子 10000m**

1 近藤秀一(4年)	29'41"74	5/27
2 道岡聖(1年)	33'18"82	6/23
3 福本啓悟(1年)	33'33"80	6/23
4 加藤悠生(1年)	33'38"65	6/23
5 古賀淳平(3年)	33'47"88	6/2

**男子 110mH**

1 本田洋平(2年)	15"67(0.0)	8/26
2 馬上凌(1年)	16"06(0.0)	8/26
3 松田光陽(3年)	16"17(+1.6)	6/9
4 村井輝(3年)	16"44(-5.1)	5/25
5 増田多聞(1年)	16"86(-4.2)	7/8

**男子 400mH**

1 松田光陽(3年)	55"66	6/9
2 本田洋平(2年)	57"47	7/29

3 柏木龍太(2年)	57"54	7/8
4 滝口直弥(2年)	1'01"56	7/29

**男子 3000mSC**

1 阿部飛雄馬(3年)	9'24"59	7/29
2 栗山一輝(3年)	9'36"63	7/29
3 大庭帆貴(2年)	9'52"25	5/5
4 古賀淳平(3年)	10'04"55	3/23
5 肱岡佑(4年)	10'35"83	7/8

**男子 5000mW**

1 後藤潤平(3年)	20'57"89	7/28
2 堀江駿(4年)	22'07"31	7/28
3 千菊智也(2年)	22'53"26	6/9
4 保田垂久利(1年)	23'25"39	7/28
5 松原亘希(1年)	24'35"55	7/28

**男子 10000mW**

1 後藤潤平(3年)	42'22"00	7/7
2 堀江駿(4年)	44'36"69	7/7
3 千菊智也(2年)	45'45"95	5/26

**男子 4×100mR**

1 小嶋(4)-阿久津(3)-井上(2)-木下(4)	40"89	5/24
2 小嶋(4)-阿久津(3)-井上(2)-木下(4)	41"03	5/25
3 小嶋(4)-阿久津(3)-井上(2)-村井(3)	41"21	7/28
4 村井(3)-阿久津(3)-井上(2)-伊藤(3)	41"90	4/7

**男子 4×400mR**

1 小嶋(4)-岩崎(2)-坂口(4)-伊藤(3)	3'20"24	7/29
2 小嶋(4)-村井(3)-坂口(4)-伊藤(3)	3'21"06	7/8
3 伊藤(3)-岩崎(2)-近藤(2)-井上(2)	3'22"61	8/26
4 伊藤(3)-岩崎(2)-近藤(2)-松田(3)	3'23"27	6/9
5 小嶋(4)-岩崎(2)-近藤(2)-伊藤(3)	3'28"37	4/7

**男子走幅跳**

1 木下秀明(4年)	7m15(+1.1)	8/26
2 栗原怜也(2年)	6m87(+1.6)	7/8
3 村井輝(3年)	6m84(-0.2)	8/26
4 星野祐輝(1年)	6m75(+0.2)	6/9

5 平井智史(3年)	6m64(+1.7)	8/26
------------	------------	------

**男子三段跳**

1 木下秀明(4年)	14m93(+0.9)	5/26
2 平木基人(4年)	14m22(+0.4)	8/26
3 毛利冬悟(4年)	14m05(+0.6)	7/28
4 原澤龍平(3年)	13m91(-0.2)	5/6
5 星野祐輝(1年)	13m87(+0.7)	7/8

**男子走高跳**

1 赤塚智弥(3年)	1m98	7/8
2 木下秀明(4年)	1m98	7/29
3 永本裕貴(1年)	1m75	7/8
4 渡部智博(1年)	1m75	7/8

**男子棒高跳**

1 三宅功朔(3年)	5m20	7/8
2 戸部潤一郎(4年)	3m70	6/9
3 村井輝(3年)	3m30	5/25
4 片渕大成(3年)	2m80	7/8

**男子砲丸投**

1 八木澤光大(4年)	11m61	7/29
2 佐竹俊哉(4年)	11m24	7/29
3 中村優太(2年)	10m65	8/26
4 三浦勁士(1年)	9m62	7/8
5 村井輝(3年)	9m42	5/25

**男子円盤投**

1 佐竹俊哉(4年)	34m75	7/29
2 田口広太郎(4年)	33m83	7/8
3 八木澤光大(4年)	31m28	7/8
4 中村優太(2年)	28m91	7/8
5 三浦勁士(1年)	22m66	7/8

**男子やり投**

1 石田駿平(2年)	47m60	8/26
2 八木澤光大(4年)	44m64	7/29
3 三浦勁士(1年)	41m92	7/8
4 中村優太(2年)	41m64	4/7

5 村井輝(3年) 39m67 5/25

**男子ハンマー投**

1 佐竹俊哉(4年) 25m36 7/8

**女子 100m**

1 内山咲良(3年) 12"57(1.0) 8/11

2 谷口智海(1年) 13"33(-1.2) 8/26

**女子 400m**

1 高石涼香(4年) 59"50 6/9

2 町田黎子(1年) 1'16"26 8/4

**女子 800m**

1 高石涼香(4年) 2'10"92 5/26

2 荒木玲(4年) 2'34"36 7/29

3 花渕真生(1年) 2'45"61 6/23

4 堀越美菜(4年) 2'47"07 6/23

5 町田黎子(1年) 2'49"85 6/23

**女子 1500m**

1 高石涼香(4年) 4'35"34 3/24

2 藤原ゆか(4年) 5'01"15 4/21

3 荒木玲(4年) 5'18"03 7/12

4 花渕真生(1年) 5'41"47 8/26

5 堀越美菜(4年) 5'45"49 7/8

**女子 3000m**

1 高石涼香(3年) 10'16"93 7/29

2 藤原ゆか(3年) 10'37"31 5/12

**女子 110mH**

1 内山咲良(3年) 15"65(+0.8) 8/12

**女子 4×100mR**

1 荒木(4)-谷口(1)-内山(3)-高石(4) 52"07 7/29

**女子走幅跳**

1 内山咲良(3年) 5m56(+1.1) 8/12

**女子三段跳**

1 内山咲良(3年) 11m75(+2.0) 7/8

**女子走高跳**

1 内山咲良(3年) 1m56 7/29

**女子砲丸投**

1 内山咲良(3年) 8m07 8/26

**女子やり投**

1 内山咲良(3年) 13m82 8/12

**7. 2018年度 東大記録更新者一覧**

(種目 氏名 (学年) タイム 日付)

800m 高石涼香(4年) 2'10"92 4.22

1500m 高石涼香(4年) 4'35"34 3.24

三段跳 内山咲良(3年) 11m75(+2.0) 7.8

走高跳 内山咲良(3年) 1m56 7/29

**8. 主務より****8.1 応援 OB・OG 紹介****応援 OB・OG 紹介**

8月26日に東京大学駒場第一グラウンドで行われました第60回一橋大学・東京大学対校陸上競技大会兼第16回東京三大学女子対校女子陸上競技大会に際し、応援に駆けつけてくださいましたOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

昭和42年卒 林義之

昭和44年卒 池田元美

昭和49年卒 小寺清

昭和51年卒 田上静之

昭和54年卒 中谷敬二

昭和57年卒 室城信之

昭和61年卒 藤村陽

平成3年卒 小野満

平成13年卒 岡野浩行  
 平成21年卒 金尾太郎  
 平成22年卒 坂井啓一  
 平成23年卒 西田昴広  
 平成23年卒 渡邊拓也  
 平成26年卒 吉岡基  
 平成27年卒 上野隆治  
 平成27年卒 上ヶ嶋幸一  
 平成27年卒 栗田徹士  
 平成27年卒 篠田天馬  
 平成27年卒 二宮翔平  
 平成27年卒 原知明  
 平成27年卒 丸野幹人  
 平成29年卒 阿部龍太郎  
 平成29年卒 泉悠太  
 平成29年卒 稲葉啓人  
 平成29年卒 織原健人  
 平成29年卒 柏原翔一  
 平成29年卒 原耕資  
 平成30年卒 鈴木晴也  
 平成30年卒 寶田雅治  
 平成30年卒 土井雅人  
 平成30年卒 山之内良太

ご多忙の中応援にお越しくございましたこと、部員一同、心より御礼申し上げます。

## 8.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

9.6(木)～9.9(日)	日本I.C.@等々力
9.24(月祝)	京大戦@山城
10.13(土)	箱根駅伝予選会@立川
11.10(土)	皇居周回駅伝

## 8.3 連絡先

連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二

TEL : 03-5370-9370

Mail : Seiji\_Saito@suntory.co.jp

学生主務：原島敏知

〒167-0054 東京都杉並区松庵 2-9-16

TEL : 090-8848-7525

Mail : shumu@uttff.org

学生主務補：荒木玲

Mail : uttf.shumuh@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG 向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.uttff.org>

学生主務 原島敏知

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の大島までお送り下さい。

部便り主任 大島知之

(Mail: uttffdyri2017@gmail.com)